



# ゼミ・研究室 紹介文サンプル

以下のサンプルを参考にゼミ・研究室紹介文を作成してください。

## 【学部一の厳しさとの評判】

私たちのゼミでは、強烈に難しいテキストに悪戦苦闘しつつ、日本経済のマクロ分析をおこなっています。学部一の厳しさと評判ですが、実際は??です。●●先生は普段はとても優しく、よく飲みに連れて行っていただいたり、自宅に招待していただいたりします。ゼミ生もとても仲が良く、縦横のつながりも非常に良いです。通常のゼミ以外の活動が多いのも特徴で、企画には事欠きません。学・遊ともに充実しています。

## 【我がゼミの一番の魅力】

一口で言って「色々なキャラクター」が集まっているゼミです。通例2〜4回生合同、さらに院生数名で行われ、●●先生の講義または著書に感銘を受けた他学部・他大学の方が参加されることも度々です。また年間を通して数回の合宿があり、先生はじめ様々な年代・境遇の人と酒を片手に語り合えるところが我がゼミの一番の魅力だと思います。

## 【言葉を大切にします】

ここでは、言葉について研究しています。人は去っても言葉は残ります。そして言葉は感じるままに意味を変えます。ある風景が浮かんで来て、出来事が始まり、心の琴線にふれ、悲しくなることもあります。また、ふとした言葉にながめられることも。どれだけ言葉を費やしてもわかってもらえなくて、あきらめそうになるときでも、言葉を大切にします。そんな不思議をいつかきつと解明したいと思います。

## 【思い出作りに焦っています】

障害を持つ人たちの可能性を伸ばすのは、私達しかないと信じてこの道に入ったのは1年の春。教員のお叱りや様々な試練を受けて、もしかしたら伸びなきゃいけないのは、私達かもしれないと思いついた2年の冬。”みんなでやれば、何とかなるものだ”と少し嬉しくなった3年の初夏。そして一4年の秋、卒論に追われながらも、机を並べて座っているすぐ近くの仲間との思いで作りに焦っています。

## 【粘り腰】

私達のゼミでは、様々な文学作品の訳解、分析を行っています。個性豊かな先生方と面倒見の良い先輩方と共に、日々、研究に励んでいます。研究を行うに従って、多々問題点が出てきますが、それらを解決したときの喜びは、何事にも代え難いものがあります。そんな僕らの特徴は、若ノ花にも勝るとも劣らない粘り腰と言えるでしょう。

## 【7人のオタクたち】

私達のゼミは、昨年からなぜか個性豊かすぎる人間が集まる。ヘヴィメタル男、ナチュラルハイ男、4年で留年男、モデラー男、午後から男、ダンシング男、何をやっても世界一男、と7人7色である。これから社会に出てより一層個性に磨きをかけ、何年後かに集まったとき、7人のオタクたちになると思う。はっきり言って、これからの人生でこんな仲間たちが集まることはないだろう。

## 【能力の限界に挑戦】

「数学とは何だ!」という共通のテーマを持つ仲間たちに出会ってから2年半。能力の限界に挑戦し続けた日々であった。でも、卒業後はみんなそれぞれ自分の道へ進んでしまう。だからって、”それっきり”なんてしないで、素晴らしい仲間たちとともに数学を学んだということを忘れないで欲しいと思う。

## 【1対1のバトルロワイアル】

4時15分を少し過ぎた頃に、ベタン、ベタンとサンダルの鳴音が廊下に響きわたる。今日のレジェ担当者は誰だ? これからの90分は●●先生と1対1のバトルロワイアルが始まる。果たして勝利はどちらの手に? 質問に要する時間が多ければ担当者の勝ち。しかし、質問を軽かわされるようだと先生の勝ち。このようなことを考えながらゼミを過ごす我々であった。

## 【1日25時間】

我々、田川ゼミは1日25時間という研究体制のもと、年中無休で”コンビニエンススター”のように頑張っています。一緒にいる時間が長いので、院生と学部生の仲も良く、年齢や学年の境もなく、友達感覚でいつも和気あいあいとした雰囲気の中で、研究に遊びに励んでいます。

## 【雨にも負けず風にも負けず】

毎朝9時に出勤し、夜の7時に退社する。雨にも負けず風にも負けず、研究につぐ研究でつかれはてる私達。それでもバイトに精を出し、なんてすばらしい日々。たまには逃避行もするけれど、たまには遅刻するけれど、研究しているかと聞かれたら、でかい顔して「もちろんです。」発表前には、あるはずのデータの山、どこをみてもみあたらず、悪戦苦闘の日が続く...

## 【とても自然体でいられる】

民訴のゼミは、先生と学生一人という小さな小さなゼミです。先生のマイペースな性格のせいも、学生が一人ということからか、2年間とてもおんぶりとしていました。授業中は、ゼミ室がとても広く感じることもありましたが、なかなか快適でとても自然体でいられるゼミですね。

## 【自由な羽根を持って】

私達の文化論ゼミは、楽しいことばかりです。授業中お茶の時間で授業がつぶれる事もしばしばありました。徹夜ウノをしたり、寝ている子の顔に落書きしたり、楽しかった思い出ばかりです。それでも、4年間はいろいろな意味で、私達は成長しました。今、大学生という自由な羽根を持っているときが終わろうとしています。今度は責任という誇りを持って社会を生きていきたいと思っています。

## 【卒論】

木枯らしが紅葉した木の葉を揺らす頃、私達はようやく卒論のために重い腰を上げ始める。大学生活最後の秋という、もの悲しいこの時に、そんな思いにふける暇もない程焦り苦しまねばならない私達は、ある意味で卒論というものに感謝しなくてはいけないのかもしれない。そんなくだらないことを考えている間にも木の葉が舞い落ち、私達を無言のうちに責めたてているのであった。

## 【天国と地獄】

一年中夜遅くまで電気がついてるのはうちのゼミです。何かとパワフルな院生と親切な?先生のおかげで一部の学部生は、すっかりスマートになってしまいました。かと思えば5時にサッと消えてしまうのもいて天国と地獄が共存する変なところなんです。いろんな奴がいますが「早く卒業したい!」という思いだけはみんなの共通点です。

## 【永遠に不滅】

写真を見て、すでにおわかりと思いますが、この法律・経済ゼミは美人ぞろいで有名です(笑)。しかしディズニー映画じゃないけれど、美女にはやっぱり野獣…。男性陣(教員含む)は個性的な方々ばかり。まあ、そんなことはおいといて、皆様と出会っては2年と半年。お別れの時間となりました。But 我が法律・経済ゼミは永遠に不滅です。

## 【皆、散ってゆく】

水曜日の屋下がり、穏やかな午後の日が射込むゼミ室は緊迫した空気に包まれる。一読しただけでは理解不能の難解な書物を相手に、誰もが手に汗を握り頭の中では必死になって理論を組み立てる。だが、一度それが破綻すると、「根拠を示せ」が口癖の教員による厳しい追求が始まる。それゆえに、ゼミ後の一時は「なんか学問した」充実感を胸に、コンパにバイトにと、皆、散ってゆくのであった。